

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300602		
法人名	社会福祉法人 祐寿会		
事業所名	グループホームよしき		
所在地	山口県山口市吉敷佐畑4丁目5番24号		
自己評価作成日	平成27年12月28日	評価結果市町受理日	平成28年5月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年1月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3食共ホーム内で調理しており野菜切りや米どぎ、盛り付け等調理の出来る方には手伝っていただいています。月8回のお楽しみ食では入居の方の希望を取り入れた献立をたて一緒に買い物に出掛けています。また、クッキングの日では全員に何かの関わりをして頂き食への興味を持っていただくと同時に持てる力を発揮していただき出来ることの継続の支援をしています。園芸や畑作りにも参加して収穫の喜びを味わっていただいています。ドライブや外食にも出掛け楽しく気分転換をしていただいています。3～10月までは毎月お茶会をする他、花見や紅葉狩り、ボランティアの方によるオカリナ演奏や歌体操、手芸にも来て頂き地域やご家族との交流を深めています。ホールには行事の写真を掲示しまた、ビデオにも記録し後日一緒に視聴することで会話をし認知症のケアに役立てています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人で一括購入された食材の他、法人の畑や事業所の畑で採れた旬の野菜を使用して三食とも事業所で食事づくりをされています。月8回は、お楽しみ食として利用者の希望を取り入れた献立で、食材の買い物から調理まで利用者と職員と一緒にしておられます。月1回のクッキングの日には、利用者全員で何かできることをされている他、おやつづくりを楽しまれています。事業所の前庭で花見をしながら手づくり弁当を食べられたり、弁当持参で戸外にドライブされたり、外食の機会も取り入れられて、利用者が食事を美味しく楽しく食べられるように、いろいろな場面を工夫されて支援しておられます。事業所が定期的開催しておられるお茶会や季節の行事には、民生委員や福祉委員の方が参加しておられ、利用者と一緒に作品づくりをして交流されています。小学生の体験学習やボランティアとの交流、認知症カフェの開催など、地域との関わりが深まるように取り組まれています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を作っており、その理念はホーム内に掲示して意識して業務に取り組むようにし、共有しながらチームケアとして実践している。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示して共有している。日常の業務の中で理念の確認をし、意識づけをして実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の福祉委員、民生委員さんが定期的に来苑されており、お茶会、季節の行事に参加されている。また買い物や散髪に出掛けたり、地元の小学生や中学生にも来て頂き交流している。	事業所が定期的に行っているお茶会に、民生委員や福祉員が来訪している他、季節の行事への参加や利用者や作品づくりをして交流している。運営推進会議のメンバーのひとりでもある民生委員の家に、利用者が来訪し、作品を見学したり、ぜんざいのおもてなしを受けているなど、ふれあいの時を過ごしている。ボランティア(歌、体操、オカリナ、大正琴、手芸、銭太鼓など)の来訪がある他、小学4年生の体験学習を3回に分けて受け入れ交流している。体験学習後の小学生からのお礼の手紙が壁面いっぱいに掲示してある。事業所の前の道を散歩している地域の人や法人のデイサービスの利用者、ケアハウスの入所者と日常的に会話をし交流している。法人他施設と協力して、認知症カフェを3回開催し、地域住民の参加を得て認知症の理解についての話や介護相談などを実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や認知症カフェなどで認知症について理解して頂く話をしたり支援の方法などアドバイスができるような体制作りをしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎年各自で自己評価し、理解して意識統一するよう取り組んでいる。また外部評価で指摘された項目について、改善に向け勉強会等で話し合い取り組んでいる。	評価の意義について、管理者が全職員に説明し、各職員が評価するための書類に記入して、勉強会で話し合い管理者がまとめている。自己評価を通して、ケアについて職員間で共通意識をもつことができたこと捉えている。前回の外部評価結果を受けて、勉強会で話し合ったり、運営推進会議で報告して協議し、外出の機会の拡大につなげるなど、できるところから改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や取り組み状況の報告や問題点の話し合いを行い意見交換をし、サービスの向上に活かしている。	会議を年6回開催し、利用者の状況や行事報告、外部評価結果報告、事業所の現状や取り組みについて報告し、意見交換している。新たな取り組みとしての認知症カフェの内容についての意見をもらったり、利用者の外出が少なくなっていることを課題として話し合い、参加メンバーである民生委員の家への訪問が実現している。災害時の地域との協力体制についても話し合っている。事業所の行事を自治会の広報でPRしてもらったり、カフェのチラシを会議で配布して地域に伝えてもらうなど、地域との関わりが深まるように取り組んでいる。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、事業所の現状やケアサービスの取り組みを報告し、問題点の解決に向けての相談や助言を頂いているが、日頃からの密な連携は取っていない。	地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に、情報交換や課題について相談し助言を得るなど連携を図っている。市の担当者とは、地域包括支援センター職員を通じて、問題点の解決に向けての相談をし助言を得ている他、法人を通じて連携を図り、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑内・外の研修に参加し、身体拘束しないケアについて学び正しく理解している。玄関の施錠はもちろん、スピーチロックにも気を付けながら生活支援ができるように環境に配慮したり声掛けにも気を付け、ゆとりを持った対応をしている。	法人の研修に全職員が参加して、身体拘束について学び、正しく理解して身体拘束をしないケアを実践している。スピーチロックにならないように気をつけて、利用者に言葉かけをしている。玄関には施錠しないで、外に出たい利用者には職員と一緒に出かけて支援している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内・外の研修で虐待防止について学ぶ機会を持ち理解を深め、周知して虐待のないケアに努めている。また毎日接遇5原則のチェックを記入する事により不適切ケアにならないように意識して業務にあたる事ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学んでいる職員はいるが、全員が理解するまでには至っていない。勉強会や苑内の研修などでもっと制度について学び現在は必要な方はおられないが、いつでも活用できるようにしておく必要がある。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項の説明をし、十分な理解、納得を得た上で契約をしている。また解約時は利用者やご家族の不安や疑問に十分対応し、説明を行い納得された上で手続きをすすめている。料金改定や契約内容の変更時は書面や話をさせて頂き理解や承諾を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見は日常生活の中で意見や思いを聞き出したり、言える様な雰囲気作りに努めている。ご家族からは訪問時やモニタリング時、会議、座談会などで意見を出して頂き、その意見を職員間で話し合ったり管理者に伝える事によってサービスやケアの向上に繋がられるように努めている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。電話や面会時、運営推進会議時、敬老会後の懇談会、3ヶ月に1回行う介護計画モニタリングなどで、家族から意見や要望、苦情などを聞いている。医療機関の受診支援について、家族にアンケートを実施し、個々の家族の希望にそって支援するよう反映している。夏の暑い時期に風通しをするために、玄関の戸を開けていると、虫が入るので網戸をつけてほしいとの利用者の声があり、網戸を設置している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	G、H会議で設けている。業務改善提案書による提案の機会を設けている。	月1回のグループホーム会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けており、会議の前に各職員が話したい議題を会議ノートに記入して意見を出しあっている。日常の業務の中で、主任に直接意見や提案を伝えている。ケアに関する意見は、その都度反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期昇給等の労働条件は、各規程に基づいて実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑外研修の積極的な受講を行っている。苑内研修は、今年度より階層別研修という取り組みを実施して職員の知識等のレベルアップと平準化を行っている。	管理者は、外部研修の情報を把握し、職員の段階に応じて研修の内容に合わせて、必要な研修が受講できるように、勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は、勉強会で復命報告をし共有している。法人研修は、認知症、食中毒、感染症対策、身体拘束など、月1回実施している。内部研修は、勉強会として毎月1回2時間程度、テーマ(感染症、接遇、災害訓練、虐待、身体拘束、緊急時の対応、発熱、介護支援、自己評価等)を決めて、職員が交代で講師を務めて実施している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	G. H協会等の外部機関の研修等には積極的に職員を参加させて交流や情報交換の機会を設けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前にアセスメントで情報を得、それを職員間で共有した上で、ご本人から話を聞きながら話題を見つけ、会話をすることで安心される様な関係作りをしている。また、ご本人の困っていること、不安な事など思いを受け止めながら信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階でご家族の意見や要望などを聞いて不安のないような関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の段階でご家族、ご本人から話を聞き、情報や要望を元に今現在何を必要としているかを話し合い、ご本人が安心して生活して頂けるようなケアプランを立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はなるべくご本人でして頂き、出来ないところを支援する事で暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	買い物や受診、外出行事等、ご家族の希望や都合に合わせて出来る範囲でご本人を支えて頂いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、兄弟等、馴染みの人が気軽に訪ねて来られている。また馴染みの美容院やお寺、お墓参り等ご家族と共にに行かれています。	家族や親戚の人、友人、知人、教え子などの来訪がある他、年賀状や手紙、電話での交流を支援している。ドライブの時に自宅周辺や思い出の場所に出かけている他、家族の協力を得て、外出や外食、外泊、馴染みの美容室の利用、墓参りなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方と同じテーブルにし、一緒に食事や会話をする事によって安心して1日を過ごして頂けるように支援している。また利用者同士でトランプをしたり、仲の良い方の部屋へ訪室される方もいる。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くに移られた方に対しては、お会いする機会があればお声掛けをしたりご家族から様子を伺ったりしている。相談があれば対応や支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で一人ひとりの思いを聞いたり様子を見たりして24時間シートに記録し、3ヶ月に1回のケアプランの見直し時にスタッフ間で話あっている。	入居時の基本情報の活用や、日常の関わりの中での利用者の会話や様子、表情など、職員が気づいたことを行動記録に記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族から聞いたり、職員間で話し合い本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のご家族からの情報やご本人との会話の中から聞いた事を記録し職員間で共有している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、心身状態は行動記録に記入し職員全員で把握できるようにしている。また、その記録の中で一人ひとりの出来ること、できないことの現状の把握にも努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回ケアプランを見直し、モニタリングも行いご本人・ご家族の要望や意見を聞きカンファレンスを行い意見交換をしながら現状に応じたケアプランを作成している。	本人の思いや家族の意向、かかりつけ医や看護師の意見を参考にして、カンファレンスで話し合い介護計画を作成している。行動記録の中に、介護計画の日々の実施状況を記録して、3ヶ月毎のカンファレンスでモニタリングを実施し、見直しをしている他、利用者の状態の変化に応じて見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子は個別の行動記録に記入し、ケアの実践はチェック方式で行えているか確認している。また、その記録を元にケアプランに反映させている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況に応じ受診の同行や散髪、介護用品の購入等の支援をしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の住民の訪問で一緒に手芸をしたり、お茶会でお接待をしたり、小学生との交流会では日常の手作業で作った雑巾をプレゼントして喜んで頂いた。また、お花見、紅葉見物にはご家族、地域の福祉委員さんと出掛け交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人やご家族が希望されるかかりつけ医に連れていかれ結果を事業所に報告していただいている。ご家族の受診が無理な場合はご家族の希望で協力病院に職員がお連れしている。特別な場合は様子を書いたものを医師に渡している。	利用者それぞれのかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医とし受診の支援をしている。受診時には、利用者の情報をかかりつけ医に提供し、受診後には電話で家族に情報を伝えている。緊急時には、事業所の看護職員が協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で気になる症状や変化に気付いたときはGH看護師にその都度伝え適切な指示。助言を仰ぎ対応している。GH看護師が不在の時は系列施設の看護師に相談したり応援を求めている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書を作成し円滑に医療が進められるようにしている。またご家族から入院中の様子を聞いたりご家族の許可を得て訪問し病院関係者と情報交換したり退院の前には担当者会議を行い今後の対応について話し合っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から日常の様子や気になることをご家族に伝えるようにし、重度化したときの支援の方向性について不安のないように話し合いを行うようにしている。	指針があり、重度化した場合の事業所でできる支援について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、家族がかかりつけ医と相談し、職員や関係者と話し合い、他施設への移設も含めて方針を決め、全員で共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	日常のヒヤリとした事を個別ファイルに記録し職員間で予防策を話し合い事故防止に努めている。服薬の際には1人ひとり確認している。急変時や事故発生時に備えGH内の勉強会や苑内・外の研修で応急手当や初期対応の訓練を行い実践力を身につけている。	マニュアルがあり、ヒヤリハットや事故発生時には、その都度、発生事例の段階に応じて、ヒヤリハット記録、ヒヤリハット報告、事故報告書を作成し、職員全員で対応策を話し合い、事故防止に取り組んでいる。緊急時の対応や感染症の対応など、法人研修や内部研修で学んでいる。実際に発生したノロウイルスの感染対応や嘔吐物の処理を実践訓練としている。全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内での災害訓練を行う事で他部署との連携を図りながら安全に避難できるように訓練している。GH内の勉強会でも実際にやってみて身に付けられるように努めている。地域との協力体制は推進会議で話し合っている。	年3回、法人施設合同で昼夜間を想定した通報、消火、避難訓練を消防署の協力を得て実施している。1回は、火災を想定した訓練に合わせて土砂災害等を想定した風水害訓練を行っている。事業所独自でも防災避難訓練を行い、地域住民4名の参加協力を得ている。運営推進会議で、災害時の地域との協力体制について話し合っている他、管理者が地域の消防団に加入して協議しているが、協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し思いを受け止めながら誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応を心がけている。毎日接遇5原則のチェックもしている。	一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの確保について、毎月の会議で話し合ったり、毎日、接遇5原則(あいさつ、身だしなみ、環境、表情、態度)に各自がチェックしている。利用者を人生の先輩として、尊敬の念を持って接し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を徹底している。個人記録は保管し、取扱いに注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で本人の思いや希望を聞き出したり、何でも言える様な環境や雰囲気作りに努めている。また、自己決定できるような場面を作るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れのなかで、一人ひとりの気持ちを尊重し、できるだけご本人のペースに合わせて自由に休憩や行事に参加していただいている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが不十分な方に対してはその都度声を掛けたり整えたりしている。また、行事や外出の際にはお化粧をしたりおしゃれな服を着ていただいている。馴染みの美容院に行かれたり朝、化粧をされるかたもおられる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホールから見える所で調理している為、調理の音やにおいで食事が楽しみなものになっている。また、月8回のお楽しみ食では利用者の好みや希望される献立にしたり、クッキングの日では出来る範囲で全員に参加して頂き調理することで食事が楽しみなものになるように努めている。	三食とも事業所で食事づくりをしている。法人が一括購入した食材の利用や、法人の畑で収穫した野菜や事業所の畑で採れた野菜(キュウリ、トマト、玉ネギ、ナス、ピーマン、サツマイモ)など旬のものを使用して調理している。利用者は、野菜の下ごしらえや米研ぎ、お茶配り、テーブル拭き、盛り付け、下膳、食器洗いなど、一人ひとりができることを職員と一緒にしている。月8回のお楽しみ食として、事業所独自に利用者の希望を聞いて献立を立て、食材の買い物から調理までしている。月1回のクッキングの日には、利用者全員が参加して、できることをしている他、おやつづくり(ホットケーキ、どら焼き、おはぎ、牛乳寒天など)を楽しんでいる。事業所の前庭で手づくり弁当を食べたり、弁当持参で戸外で食べたり、外食の機会も取り入れて、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の立てた献立により栄養バランスのとれた食事を提供している。一人ひとりの体調や状況に応じて量や形態を変えて食事が進み易いように支援している。毎月の体重管理もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後緑茶にて必ず口腔ケアを見守りながらしていただいている。不十分な方に対しては磨き残しを確認し介助している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間シートに排泄の記録をする事によって一人ひとりの排泄パターンを把握し声かけをするなどし失禁を減らすことが出来るように支援している。また食事の前にはトイレの声かけをしている。	行動記録の排泄記録をチェックして、排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導で、トイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材には野菜を多く使用し雑穀米や乳製品、汁物の提供などで便秘予防に努めている。日中は、体操やレクリエーション、散歩等で体を動かして頂いている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員の勤務体制により一人ひとりの希望やタイミングに合わせての入浴はできないが気持ちよく入って頂けるように入浴剤を入れたり温度調整をしている。また、入浴順の希望を聞いたり入浴中の会話や歌で楽しく入浴して頂く工夫をしている。	入浴時は毎日、13時30分から15時までの間可能で、利用者の体調や希望に合わせて、2日に1回は入浴できるように支援している他、入浴剤の使用やゆず湯にしたり、職員と会話しながら、ゆっくり入浴できるように支援している。利用者の状態に応じて、足浴や部分浴、シャワー浴、清拭などで対応している。入浴したくない利用者には、言葉かけを工夫して、無理せずに入浴できるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人ひとりの体調や体力に合わせて自室で休まれたりホールで過ごされたりしている。なるべく日中活動して頂くことで夜の安眠に繋げている。気温に応じてエアコンで温度調整をしたりその方に合った寝具を使用させて頂いている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルや服薬表にて一人ひとりが使用している服薬がわかるようにしている。症状の変化があれば看護師に相談し家族や医師と連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事では得意なことを披露していただいたり食事作りや掃除、縫い物など一人ひとりに応じた役割をして頂いている。またドライブや外食で気分転換を図ったりボランティアとの交流で地域との関わりも深めている。	テレビ視聴(歌番組、時代劇)、新聞や週刊誌を読む、絵本や本を読む、歌を歌う、歌体操、テレビ体操、リハビリ体操、口腔体操、踊り、大正琴を弾く、雑巾を縫う、編み物、俳句、ぬり絵、トランプ、季節の行事(書き初め、ミニ運動会、敬老会、お月見、盆踊り、クリスマス会、門松づくり、しめ縄づくり、餅つき、お笑い講など)への参加、おやつづくり、しそジュースづくり、食事の準備や後片づけ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、居室の掃除、畑の野菜の水やりや草取り、収穫など、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に添っての外出支援は出来ていないがお天気の良い日は散歩や日光浴など屋外に出られるよう支援している。花見、外食、ドライブでは行きたい所の希望をお聞きしたりご家族や地域の方にも参加して頂いている。ご家族と美容院やお墓参りに行かれている方もいる。	周辺の散歩やドライブ、季節の花見(梅、紫陽花、ツツジ、紅葉狩り)、初詣などに出かけている他、家族の協力を得て、外出や外食、外泊など戸外に出かけられるように支援している。民生委員宅を訪問し、手づくり作品を見たり、受診の帰りに馴染みのお寺に立ち寄るなど利用者が外出できるように工夫している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の持ち込みはされないようお願いしているが、手元にお金がないと不安になられる方はご家族の了解のもと少額の現金を持っているかたもおられる。ご家族との外出の際に買い物をして来られるかたもいる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方は職員が取次いで話が出来るようにしている。手紙を書かれる方は職員と一緒にポストに行ったり職員が投函している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホール、廊下など共用の場には季節の花を飾ったり季節感のある掲示物や作品を飾っている。ホールでは、カーテンを取り付け強い日差しを防いで不快な光や温度に配慮している。中庭には季節に応じた花を植え楽しんでいただいている。	ホールは窓が大きく、自然の光が差し込んで明るい。共用空間には、各所に季節の花が生けてある他、中庭のプランターに季節の花が植えてあり、壁面には、季節に合わせた利用者の作品が飾ってあるなど季節感を採り入れている。テレビやソファ、テーブルや椅子が配置しており、台所から調理の音や匂いがして生活感もある。温度や湿度、換気に配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士で話をしたり思い思いに過ごせるように席の配置やメンバーの工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や好みの物ご家族の写真や大切にされている物を持って来られており安心して過ごしておられる。TVやラジオを持ってこられている方も思い思いに視聴されている。大正琴を持ってきて練習している方もおられる。	ベットやタンス、テーブル、テレビ、三面鏡、ラジオ、仏壇、大正琴など使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、思い出の写真や家族の写真、作品などを飾り、安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室など手すりを設置して転倒防止に努めている。また、廊下の手すりに矢印をつけてトイレまで迷わずに行けるように支援している。自力で起床、臥床しやすいようにベット柵の設置や位置の工夫をしている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム よしき

作成日：平成 28 年 5 月 18 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	急変時や事故発生時の初期対応の訓練をしているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	全職員が急変時や事故発生時の応急手当や初期対応の定期的な訓練を継続して行い、実践力を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハットにあげられているものや身につけたい応急手当や初期対応の仕方を勉強会のノートに挙げ、毎月の勉強会で看護師の見本を見ながら1人ずつ実践し身につけていく。</li> <li>・実践訓練のマニュアルを作り、チェックしていく。</li> <li>・定期的に同じ事でも何度も実践して身につける。</li> </ul>	6月～12月
2	36	災害や地震、水害時の訓練(日中・夜間)に地域の方の参加は得られているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	地域住民との協力体制の構築を具体的に示していく。	協力して頂きたい事柄を事前に職員間で話し合い、地域推進会議やカフェで地域の方と相談をし、了解得られた事柄を文章にして提示する。	6月～12月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。